

〔平成 28 年度決算の概要〕

【資金収支計算書】

(収入の部)

学生生徒等納付金収入は、主として大学・新設学部の学年進行により法人全体の学生・生徒数が前年度と比べて増加し、予算比では 10 百万円減少したものの、前年度比は 239 百万円増加の 4,359 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比 16 百万円減少、前年度比 12 百万円減少の 81 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 8 百万円増加、前年度比 9 百万円減少の 8 百万円となりました。

補助金収入は、国庫補助金、大阪府補助金等の増加により予算比 161 百万円増加、前年度比 440 百万円増加の 1,639 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比 19 百万円増加、前年度比 22 百万円増加の 90 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、預金金利の低下のため、予算比では 2 百万円増加したものの、前年度比 32 百万円減少の 24 百万円となりました。

雑収入は、私立大学退職金財団からの交付金収入の増加により、予算比 32 百万円増加、前年度比 16 百万円増加の 136 百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比 91 百万円減少、前年度比 16 百万円減少の 837 百万円となりました。

その他の収入は、前年度において第 2 号基本金引当特定資産取崩収入、差入保証金回収収入があったため、予算比では 14 百万円増加したものの、前年度比は 942 百万円減少の 176 百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、補助金収入 452 百万円を未収入金として計上していることもあり、予算比 364 百万円減少、前年度比 480 百万円減少の 9,753 百万円となりました。

(支出の部)

人件費支出は、大学・新設学部の学年進行に伴う教員増による人件費増の影響と、勤続年数が比較的長い教職員の退職が多かったため、予算比では 41 百万円減少したものの、前年度比は 176 百万円増加の 3,421 百万円となりました。

教育研究経費支出は、各部門における節減効果が大きく、予算比では 51 百万円減少しました。また、前年度において高校 2 号館解体工事があったため、前年度比は 129 百万円減少の 1,081 百万円となりました。

管理経費支出は、教育研究経費支出同様、各部門における節減効果が大きく、予算比 42 百万円減少、前年度比 97 百万円減少の 495 百万円となりました。

施設関係支出は、予算比では 69 百万円減少しましたが、高校本館建築工事にかかる支出により、前年度比は 1,067 百万円増加の 1,893 百万円となりました。

設備関係支出は、高校本館新築にかかる備品購入があったものの、新設学部設置にかかる備品購入等の支出が減少したため、予算比 36 百万円減少、前年度比は 253 百万円減少の 200 百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出 23 百万円、収益事業元入金支出 50 百万円、減価償却引当特定資産繰入支出 131 百万円の合計額であり、前年度比 37 百万円増加の 204 百万円と予算どおりの執行となりました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比 30 百万円増加、前年度比 1,367 百万円減少の 2,453 百万円となりました。

【事業活動収支計算書】

(教育活動収支)

教育活動収入は、経常費等補助金等の増加により予算比 138 百万円増加、前年度比 311 百万円増加の 5,864 百万円となりました。

教育活動支出は、人件費が前年度より増加したものの、教育研究経費及び管理経費の節減に努め、予算比 92 百万円減少、前年度比 69 百万円増加の 5,619 百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比 230 百万円増加、前年度比 242 百万円増加の 245 百万円となりました。

(教育活動外収支)

教育活動外収支は、予算比では 2 百万円増加したものの、受取利息・配当金の減少により、前年度比は 32 百万円減少の 24 百万円となりました。

その結果、経常収支差額は、予算比 232 百万円増加、前年度比 210 百万円増加の 269 百万円となりました。

(特別収支)

特別収入は、車両売却差額及び現物寄付等を計上したことと、施設設備補助金が前年度より増加したことにより、予算比 73 百万円増加、前年度比 383 百万円増加の 467 百万円となりました。

特別支出は、図書除却差額を計上したものの、前年度において建物処分及び借地権除却があったため、予算比横ばい、前年度比 321 百万円減少の 64 百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比 73 百万円増加、前年度比 704 百万円増加の 403 百万円となりました。

(当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額は、前年度よりも学生生徒等納付金、経常費等補助金、施設設備補助金等の収入が増加したことと、経費の節減効果等により、予算比 321 百万円増加、前年度比 914 百万円増加の 672 百万円となりました。

基本金組入額合計は、高校本館新築に係る第1号基本金への組入1,822百万円、過年度に繰延べた第1号基本金の取崩しによる減少420百万円などがあり、予算比313百万円減少、前年度比1,181百万円増加の1,474百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比633百万円増加、前年度比267百万円減少の△802百万円になりました。また、基本金取崩額75百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比709百万円増加、前年度比727百万円減少の△2,723百万円となりました。

【貸借対照表】

資産の部において、有形固定資産は、高校本館新築による建物及び構築物の増加などにより、前年度末比1,463百万円増加の14,502百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が23百万円、減価償却引当特定資産が131百万円増加したことにより、前年度末比154百万円増加の5,862百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金が増加等により、前年度末比50百万円増加の576百万円となり、固定資産合計では前年度末比1,666百万円増加の20,941百万円となりました。

流動資産は、高校本館新築等に伴う現金預金の減少等により、前年度末比965百万円減少の3,031百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比701百万円増加の23,973百万円となりました。

負債の部においては、未払金及び前受金は減少したものの、主として退職給与引当金が増加したため、前年度末比29百万円増加の総額2,138百万円となりました。

純資産の部において、基本金は、高校本館新築等による組入により第1号基本金が増加したため、前年度末比1,399百万円増加の24,558百万円となりました。

繰越収支差額（翌年度繰越収支差額）は、事業活動収支計算書の当年度収支差額等で述べたように、前年度末比727百万円減少の△2,723百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比672百万円増加の21,835百万円となりました。

以 上